

海外安全対策情報
(2017年7月～9月)

在セブ領事事務所

1 社会・治安情勢

(1) セブ州はマニラ首都圏に次ぐフィリピン第二の大都市圏であり、テロのターゲットとして大型ショッピングモールや外交団施設、外国資本の施設が標的とされる可能性が大きく、また国際空港及び複数の港湾を有していることからテロリストの侵入も容易である。

4月中旬にボホール州イナバングにおいてアブ・サヤフ・グループ(ASG)のメンバーと治安部隊とが衝突する事件が発生したが、その後はテロが発生するような情報には接していない。

(2) セブ州は世界的に著名な観光地を擁しており、2016年においては年間35.3万人の邦人がセブを訪れている。また下記のとおり邦人旅行者及び在留邦人が巻き込まれた犯罪被害が発生していることから、夜間の単独行動や人通りの少ない通りの一人歩きは避けるべきである。またレストラン等飲食店における置き引き被害が多発していることから、手荷物は身につけるか常に目視確認を行う等注意を怠らないことが重要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) フィリピン国家警察から入手したセブ州の犯罪統計によれば、2017年7月～9月における犯罪発生件数は以下のとおり。

(ア) 殺人(含む未遂) 97件(前期比: 26.5%減)

(うちセブ都市圏(セブ, マンダウェイ, ラプラプの3市)で33件(前期比: 37.7%減))

(イ) 傷害 459件(前期比: 16.2%減)

(うちセブ都市圏の3市で202件(前期比: 16.5%減))

(ウ) 強姦 95件(前期比: 12%減)

(うちセブ都市圏の3市で22件(前期比: 49%減))

(エ) 強盗 321件(前期比: 6.4%減)

(うちセブ都市圏の3市で164件(前期比: 14.6%減))

(オ) 窃盗 748件(前期比: 10.7%減)

(うちセブ都市圏の3市で500件(前期比: 18.4%減))

(2017年7月～9月における犯罪件数総数は10,720件、前期比より2.5%減、前年同期比で3%減となっている)

(2) 邦人被害事案

(ア) 7月上旬、セブ市内において日系語学学校に留学中の邦人男性がバイクタクシーを利用し、下車したところ3人組の男に取り囲まれ財布及び携帯電話を窃取された。

(イ) 7月中旬、セブ市内モール内において出張で来比中の邦人男性が買い物中、鞆を開けられ現金及び旅券を窃取された。

(ウ) 7月中旬、セブ市内モール内において旅行中の邦人女性が買い物を終え精算しようとした際、何者かにより鞆を開披され財布を窃取された。

(エ) 7月下旬、帰国のためセブ市内よりタクシーに乗車した語学留学生(女性)が空港とは反対の地域に連れて行かれ、高額な料金を請求されたため無理矢理に下車し、足に軽傷を負った。

(オ) 8月上旬、セブ市内ITパーク内の飲食店において旅行中の邦人男性が現金の入った鞆を椅子の横において飲食していたところ背後にいた男に鞆を窃取された。

(同地域においては外国人がスリ・置き引きの被害が遭うケースが続出している)

(カ) 8月中旬、マンダウェイ市内のホテルにおいて旅行中の邦人女性が市内観光後、運転手兼ガイド(比人男性)と共に飲食したところ、泥酔させられ強姦される事件が発生した。

(キ) 9月上旬、セブ市内飲食店において在留邦人男性が椅子の背もたれに掛けてあった鞆を窃取された。

(ク) 9月下旬、セブ市内のレストランにおいて出張で来比中の邦人男性がテーブルの下に置いてあった鞆を窃取された。

(3) 邦人以外の被害

7月下旬、セブ州タリサイ市コンビニにおいて観光客のスコットランド人(男性)が比人女性とコンビニの前で食事をしていたところ、バイクで乗り付け3人組に銃器で金銭を要求され拒否したため、足を銃撃され怪我をした。警察は現在も捜査中。

3 テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

事件の発生は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

8月中旬、在留邦人が一部出資する会社にN P A（新人民軍）を名乗る組織より、活動資金の要求があり支払わなければ会社を放火する旨の脅迫テキストが届き、警察に通報した。

他には、当地に所在する日系企業・個人に対する恐喝、脅迫等の問題は報告されていない。

（了）